

北鎌倉台峯トラスト

北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報

北鎌倉だより

2012年3月 NO.26



老人の畑から六国見山を望む 2011年4月初旬

台峯の保全に力を尽くす

目 次

■理事長就任にあたって、 北鎌倉・台峯トラスト「会員の集い」	2	■川上さんのちょっと昔の物語	8
■新理事長に聞く	3	■台峯小景 麦藁塚と藤源治	9
■台峯に傷をつける藤源治緑地の開発	4	■台峯周辺一歴史つれづれ一④	10
■山ノ内891番地先の保全を求める陳情	6	■活動報告・伝言板 カレンダー報告	11
■会員の声、歩く会・モニタリング・手入れの様子	7	■樹の花（裏表紙）	12

理事長就任にあたって

出口克浩

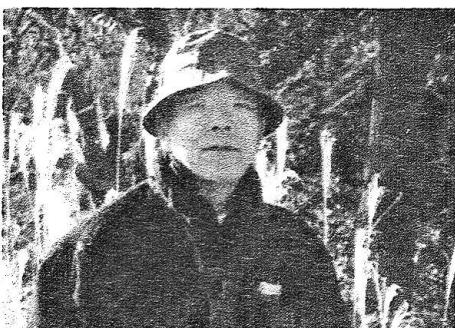
倉久保の谷戸（台峯）一帯は、文献に残されたものでも室町期の記録があります。また付近からは古代の土器が発見される等、緑地としての重要性の他、遙か古代よりの農業史を感じさせる貴重な所でもあると思っています。

平成 17 年、なだいなだ先生をリーダーに仰いだトラスト運動が結実し、宅地造成計画が予定されていたこの緑地の買い取り保全が、鎌倉市により決定されました。私たちの運動はこれで終わらず、会員の意見により、供用（一般公開）開始の平成 29 年に向けて、毎月の観察会や山の手入れ、マップ作りを行っています。これからも机上のプランではなく生きた自然から学んだものを、供用開始に活かせる様に活動を続けていきたいと思っています。

基金へ活動資金の応援を続けていただいて

いる、みどり
ショッピングの会
をはじめ多く
の方々、賛同
された会員の
方々、ボラン

ティアで監事



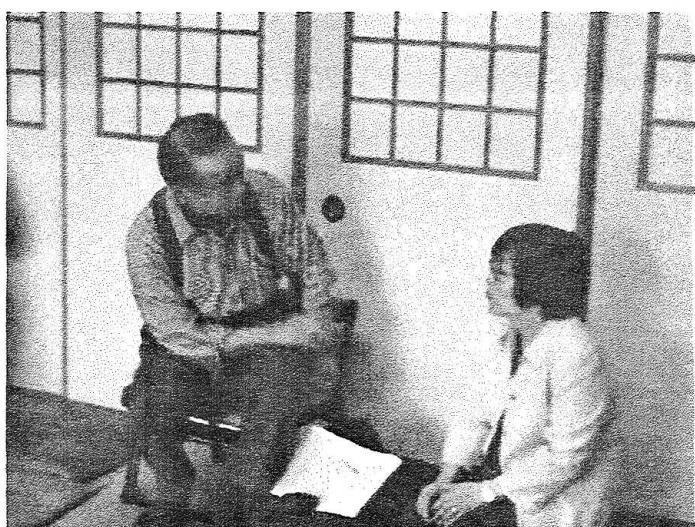
出口理事長

を引き受けてくださっている公認会計士の林先生、博物に詳しい久保さん、理事の皆様方には深く感謝です。小生も皆様とともに今までの経験を活かし微力ながら活動に参加させていただくことになりました。よろしくお願ひします。

春がここまで近づいています。谷戸の池近くではカエルの産卵が今年も始まるでしょう。老人の畠からの山桜をまとった六国見山の遠望、間もなくですね。

北鎌倉・台峯トラスト「会員の集い」

2011 年 11 月 23 日、北鎌倉光照寺にて恒例の「会員の集い」が開催されました。



前田さんと歓談する出口新理事長

新理事長に選任された出口理事長はこれから基金に対する協力を参加者に要請し開会の挨拶としました。来賓として「みどりショッピングの会」から、代表として前田さんより祝辞をいただき、東北大震災の影響や、計画停電等もあり、みどりショッピングとして初めての赤字となったことが報告されました。

続いて、「台峯を守る作業と生き物の現状」について久保理事からの報告となり畔の土形の補強、老人の畠での苗木の育成、散策沿の草刈り、畔の回復、青木や笹の伐採等の作業に因ってエンマコオロギ、トンボの産卵が見られるようになった。またカナムグラの除去によりオギ原の土壤の乾燥化に歯止めを掛け



久保理事

ることができ、その作業の過程でカヤネズミの巣を確認できた。こうした一連の作業は5年後の供用開始に向けた試行段階として重要な作業であり、基金の一連の活動の成果として動植物の変貌を知ることができた。

市川理事からは「台峯緑地の課題」として（株）愛鷹三光商事による藤源治開発に対し当基金としても議会に要望書を提出し鎌倉市とも度々の折衝がおこなわれた経緯が説明されたが事態は厳しいとの事、なお今後も事態を注意深く見守っていく決意が表明されました。

質疑討論に移り、会員から、基金が台峯を私物化しその活動も閉鎖的ではないかとの疑問が出されたが、久保理事から今の作業は

一般公募以前、供用開始前の作業を行っている段階で、基金が独善的に作業を取り仕切って居る訳ではなく、この7年間で100回に及ぶ市との協議の上で作業がなされており、台峯保全連絡会、フレンズ オブ カマクラ・台峯とも協議した上での共同作業となっているとの答弁がなされました。

今後の基金の課題としては、自然を観察する人と自然を手入れするこの両方できる人が求められているとの結論に達しました。

今回の「集い」は毎回お見えになる顧問のなだ いなださんが所用のため欠席されましたが参加者数は例年通りで「集い」はまずまずの盛況裏に終わりました。

小田原茂夫



新理事長に聞く

10代より山登り、特に高山植物に親しむ。串田孫一、辻まことなどの影響を受け各地の林道開発反対運動に参加していました。《Do for Nature》丹沢ドン会（1992年発足 2001年からNPO法人丹沢ドン会となる）理事として山林の手入れなどに参加してきたほか、タカの渡り観察も20年ほど続けています。

丹沢で培ってきたことを地元で活かせたらと基金に参加しました。これから私たちはトラストとして、まだ予断を許さない台峯周辺の緑地保全に取り組むと同時に保全した緑地の維持管理で、自然を愛し、守る人を増やし、緑地の自然度を高める試みを続けようと思っています。

台峯に傷をつける藤源治緑地の開発

毎月、同じ道を歩く“台峯歩き”も今年で15年目に入りました。このルートの中で唯一、眺望を楽しめるのが、通称“老人の畠”です。眼下に、北鎌倉の山に抱かれるように古刹と家々が点在し、“山ノ内”という北鎌倉本来の地名の由来が実感できます。鎌倉時代、阿仏尼が、「袋の中に物を入れたるやうに住まひたる」と形容した情景が今に残っているのです。“谷戸（やど）”と呼ばれる谷間に沿って枝のように広がる街並みは、鎌倉独特の景観です。台峯の“老人の畠”に来れば誰もが「鎌倉に来たなー」と実感できるでしょう。この景色が無ければ、台峯歩きも単なる自然探索で終わってしまうかもしれません。

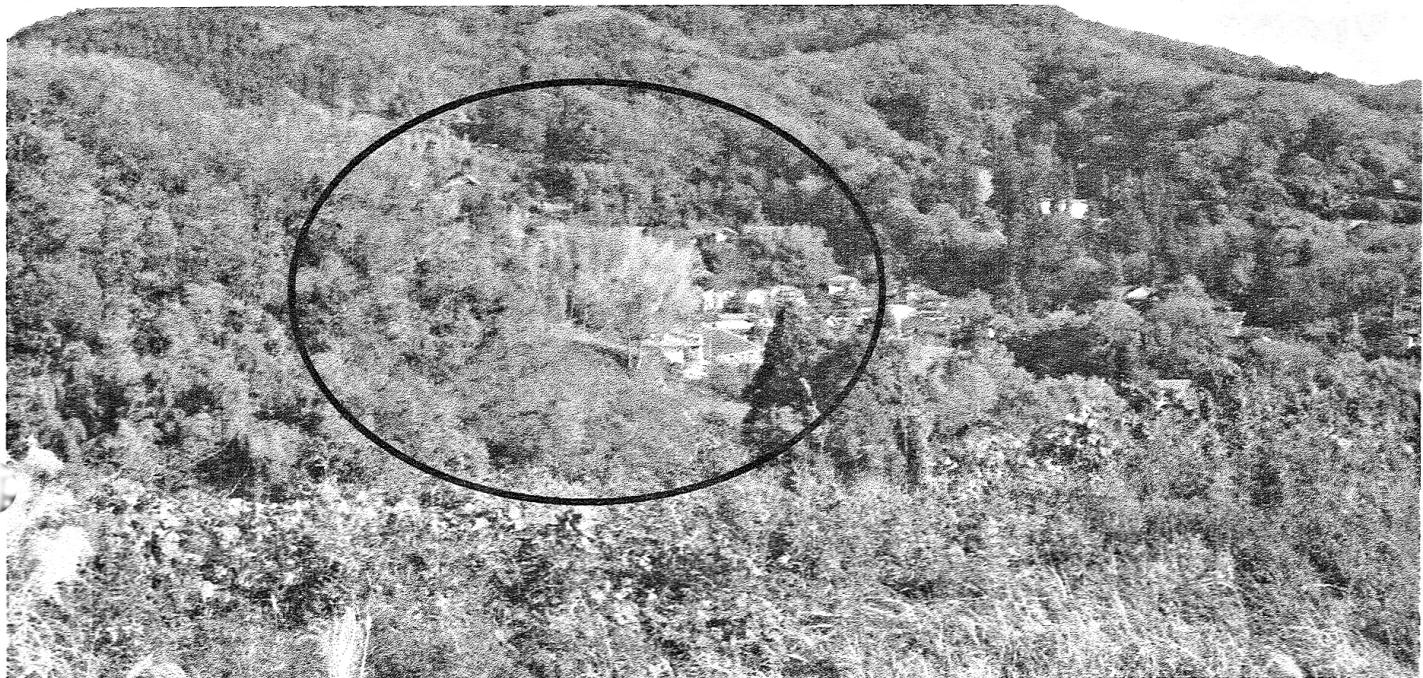
ところが、このパノラマの重要な一角が消え去ろうとしています。我々が見下ろす最も近い斜面（藤源治と呼ばれる地域）が、えぐりとられるように切り開かれ、大部分が開発される可能性が出てきたのです。ここは台峯緑地の一部に含まれ、「保全配慮地区」に指定されている地域です。しかも、鎌倉市の「緑の基本計画」でも保全すべき緑地とされています。しかし、なぜか法的な拘束力が無いために、開発を止めることができない現状なのです。まさかと思っていた急斜面の開発。斜面の下には昔ながらの谷戸に住宅地が開けており、裏山の無理な開発で洪水などが心配されているのです。次に、自然保護のためにも看過できない問題があります。すでに山桜の大木が何本も切られていますが、台峯緑地の一部にもかかわらず何も環境調査が行われていません。小規模な開発なら環境調査無しで開発できること自体が問題ですが、隣接地に

連鎖すればさらに大規模開発につながる危惧があります。また、この付近はオオタカやサシバなどタカ類が頻繁に利用する場所でもあります。特にサシバと呼ばれるカラスくらいの大きさのタカが、渡りの途中にこの付近で休息している姿を見かけます。サシバは、森に囲まれた静かな畠でカマキリなどを採食する習性があるので、この一帯は重要な場所なのでしょう。近年、台峯に近い六国見山周辺の開発が進み、餌場が少なくなっているせいか、サシバの数が少なくなっています。藤源治緑地の開発が貴重な鳥類に与える影響が憂慮されます。

現在の鎌倉市では、大規模開発ができる地域は残されていませんが、相続税にともなう、小規模な斜面緑地の開発が頻発しています。こうした場所は、藤源治緑地と同じように、面積は狭くても、景観や生態系の要となっている場合が多いのです。周辺が徹底的に開発された結果、からうじて残っている水源や斜面緑地は、生き物たちにとって駆け込み寺のようなものです。たとえ、ささやかな斜面の縁でも、周辺の住民にはどれほど慰めになっていることか。その大切さを伝えることは地域住民でなければ難しいのです。まして台峯の“顔”とも言える藤源治緑地の価値は、地元町内会のみならず私たちも声を挙げなければ知られることもないでしょう。今後、台峯緑地の一般公開に伴い、北鎌倉駅から多くの人が訪ねて来るようになります。緑豊かな藤源治緑地を前景に、鎌倉らしい景色を満喫して欲しいものです。将来、この地を訪れる人のためにも、ようやく守られた台峯緑地に傷をつけたくないと願います。

久保廣晃

「老人の畠」から見た景観 — 緑の連なりの中の藤源治宅地開発計画地（円の内）
計画地の樹木を伐採したため、木立の間から住宅が見える。開発計画ではその手前に住宅を建てる。



藤源治の開発計画に対し、当基金は昨年8月、9月にかけて緑地保全を求める要望書を市長宛、関東財務局宛、市議会議長宛と3通提出し、有志の会「藤源治の緑を守る会」が周辺2町内会の賛同を得て、昨年9月1日に当該緑地の保全を求める陳情書（3,000余の署名を添付）を市議会議長に提出しました。建設常任委員会では今後の推移を見守るとして継続審議となりました。（前号で報告しました）

陳述報告

2012/2/29

雪の降る中、地元町内会をはじめ基金のメンバーなど大勢が傍聴に来てくださいました。「藤源治」という地名の由来にも歴史の重みを感じながら陳述に臨みました。台峯の景観と渡り鳥の中継地として、藤源治緑地がいかに大切であるかを語りました。また、「緑の基本計画」などで、緑地を保全する意向が示されているにも関わらず、開発を規制できない矛盾を訴えました。これに対し、建設常任委員

なんとか食い止めたいと周辺の方々は、開発反対の意思を伝える幟を立てています。その後開発計画は変更され、全敷地4,000m²のうち当面の1,000m²の開発だけでなく、その後も開発を続ける意図がはっきりとしてきました。

それを受けた今回当基金は2月8日に議長宛の陳情書（P.6）を提出し、建設常任委員会にて久保廣晃さんが保全を求める陳述をしました。以下はその報告です。

会の6名の市議員からは、前向きに緑地を保全したいという意向が汲み取られ、希望を抱きながら閉会となりました。

鎌倉には全国に類を見ない詳細な「緑の基本計画」があります。傍聴者の中には40年以上前から緑地保全に取り組んでいる方もおられ、市民運動の歴史の長さを感じます。小さな緑地であってもこれほど多くの人が関心を持ち、議会で討議される、鎌倉の緑意識の高さを感じた一日でした。

（久保廣晃）

山ノ内 891 番地先（都市緑地候補地）を含む（仮称）山崎・台峯緑地周辺保全配慮地区の自然環境調査を行い、保全緊急性の正当な評価を求める陳情

1 陳情の要旨

現在、山ノ内 891 番地先の斜面緑地において、宅地造成を目的とする道路建設が強行されようとしています。当該地は、自然との高い台峯緑地の一部を形成しているにもかかわらず、台峯緑地辺縁部に位置することから、2001 年～ 2002 年に、実施された「鎌倉市自然環境調査」における「鎌倉市中央公園（台峯）」の調査においても、台峯緑地の中心部とは異なり、現地を踏査する充分な環境調査がなされておりません。当該地の開発は、膨大な税金を投入して、ようやく保全された台峯緑地の自然環境や景観に重大な影響を及ぼす懸念があります。（仮称）山崎・台峯緑地と一体となるべき保全配慮地区から都市緑地候補地へと保全の緊急性評価を高めた緑地となった以上、何らかの拘束力が働くような条例制定が必要と感じます。これを機会に、鎌倉市議会において、緊急に保全の必要がある緑地に関して実効性のある緑地保全条例の制定など保全に向け、行政に働きかけを陳情する次第です。

2 陳情の理由

神奈川県のレッドリストで「繁殖期：絶滅危惧Ⅱ類」に指定されるオオタカや「繁殖樹・絶滅危惧Ⅰ類」のサシバなど貴重な鳥類を開発予定地付近で何度も観察しております。当該地を含む斜面は、台峯から中央公園に至るハイキングコースでは唯一の展望地（通称老人の畠）から見下ろす、北鎌倉らしい谷戸景観を形成している緑地です。近い将来、平成 29 年度の台峯緑地供用開始に伴い、北鎌倉駅から、台峯、中央公園へと続く、新たな散策ルートが観光資源として脚光を浴びることになります。神奈川県政の指針として新たな総合計画「かながわグランドデザイン（仮称）実施計画」の策定が進んでおります。その中では、「人を引きつける魅力ある地域づくり」のプロジェクトとして、「行ってみたい神奈川観光魅力作り」が掲げられております。今後、多くの人に親しまれるであろう貴重な台峯緑地の一角が、充分な自然環境調査や景観への配慮もなされないまま消え去ろうとしております。当会はトラストとして台峯の保全を目指し 1998 年に設立されました。当地の豊かな自然を伝えるために台峯を歩く会を毎月開催し、また、鎌倉市との協働で、山道や湿地の手入れの試行、モニタリング調査を実施し、台峯緑地の自然環境を将来にわたり保全することを目標に活動をしております。2008 年（平成 20 年）9 月には台峯と源氏山を結ぶ緑の回廊を維持するために「山ノ内字西瓜ヶ谷 1140-1 他の買収資金の一部として積立金全額 1354 万円を鎌倉市緑地保全基金に寄付致しました。今回の開発行為の発生を受け、今後もトラスト活動を継続していく所存です。

平成 24 年 2 月 8 日

提出者

鎌倉市○ ○ ○—○—○

NPO 法人北鎌倉の景観を後世に伝える基金

理事 久保廣晃

鎌倉市議会議長 伊東正博様

会員の声

一昨年、東京の川崎から移住してきました。リス、小鳥の姿に心を和ませ、台峯や谷戸の池に足を運ぶ度、豊かな自然が暮らしのすぐ傍にあることを嬉しく感じていました。

引っ越して間もないある夜、近くの小川で、螢が群生する光景を目にしてしました。都会からそう遠くないにも関わらず、螢が生息できる川があるという事に本当に驚きました。近隣の方のお話では、螢達は一度は姿を消し、数年前からまた戻って来たとのことでした。その時、生き物たちの暮らしを守りたいという思いが自分の中に芽生えました。人間が生活していく上で、残念ながら自然に対する影響をゼロにすることはできませんが、影響を減らす為の努力はできると思います。生活排水

やゴミに注意を心がけてはいましたが、もっと鎌倉の自然環境について理解したい、行動したいという思いがいつもありました。

ある日愛犬の散歩の途中、山の手入れのお知らせを目にして、存在を知り、昨年末より山の手入れに参加させて頂ける事となりました。鳥や木々の名前、その生態などを先輩方から教えて頂いています。谷戸の池でも螢が見られるとの事です。自然の中に入ることは大地と触れ合う事だと思います。趣味の登山で訪れる山でも、この北鎌倉の里山でも、一歩、また一歩と山道を静かに踏みしめる度に大地からエネルギーを貰っています。そのエネルギーを貰う事で自分を見つめ、自然を見つめ、明日へのエネルギーを紡いでいける事に感謝しながら、これからも山にお邪魔していきたいです。

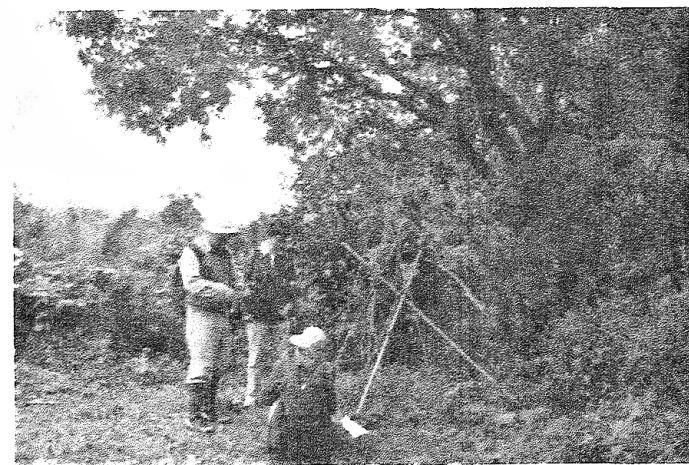
堀 亜紀子



歩く会の様子



田んぼの脇で



モニタリングの様子



ヤマナラシの苗の手入れ

手入れの様子 間伐の後始末（上）オギ原ササ刈（下）

川上さんのちょっと昔の物語

ヨウカゾウ

「ヨウカゾウ」この台本村の上地区だけに伝わる慣習しなのか、言葉で覚えているだけで、文字でどのように書くかも解らないが、変わった風習があった。一月八日は、人は山に入ってはいけない日だ、もし入ったら不吉なことや災難に会うと言われていた。村の者は山仕事や山の畠には行かなかった。親は子どもたちにも、山で遊ぶな、山に入るなど厳しく言っていた。

父の話によると、ヨウカゾウに山に入った、ちょっと変わり者と言われているサンジャムさん（三左衛門？）の〇〇さんが、「そんな馬鹿げた迷信が守れるか」と言って、言い伝えを破り山に入ってしまった。案の定、山仕

事の最中に急に目眩がして倒れてしまった。倒れている〇〇さんの頭の処を、白いひげを伸ばし、白い着物を着たお爺さんが行ったり来たりしたという。父はそのお爺さんが山神さままだと言っていた。一月八日は台峯の山神さまのお祭りだから、人は絶対に立ち入ってはいけないので。その日は山神さまの「お使い」が山から村に見廻りに来るのだ、「お使い」は三つ目小僧の妖怪だ。村に家々では

三つ目小僧が家にはいってこられないように御まじないをする。かいど口（家の入口）の真ん中に、クズ搔きに使う籠を置くと三つ目小僧は家の中に入ってこられない。籠の目の方が多いので恐れ入ってしまうのだ。

「大さむ～小さむ 山から小僧がとんできた～なんといって、とんできた～寒いといって、とんできた～寒きゃ～温まれえ～熱きゃ～引



台峯 通称ごんび山からの眺望 1955年

つあれ～引っあり虫が、た～かるぞ…」冬の寒い日、籠の前で火にあたりながら父に教わった歌だ。幼いころはヨウカゾウの三つ目小僧が山から下りてくる歌だと思っていた。この歌を聴くとなんとなく畏れと恐怖が迫ってきたのだ。

今はなつかしい、遠い昔、幼い頃の…大さむ、小さむ～……

川上克己

台峯小景　麦藁塚と藤源治

去年暮、ちょっとした事件（大げさですね）がありました。台峯の入り口に業務用の車を二、三台とめられる空き地があって、カラスザンショウの大木があり、秋から冬は小鳥たちの大切な餌場になっています。その背後的小高い丘が台峯で一番高い（といっても百メートル足らずですが）麦藁塚と、始終台峯を歩いているわたしたちは長年思いこんできました。私など古墳かしらと勝手に想像したものです。ところが「会報」にも度々登場なさる川上さんから、何と麦藁塚というのは、道を挟んで反対側にある、言われてみればそちらもこんもりとした所だと教わり、一同「エーツ」となったわけでした。台峯の低地からは縄文以来の遺物が発掘されていますが、「塚」は必ずしも墓と意味するものではありませんから。古墳など見当違ひだったのでしよう。思い込みは危険だという教訓でした。

さて、もう一つ、通称「老人の畑」の、北鎌倉から横須賀線を越え、六国見山まで一望できる見晴らし下の斜面緑地に開発造成の計画があり、桜の木などが伐採されたことは

ご存知の通りです。地元で反対の動きがあり、「基金」も開発中止の要望や陳情を行なっています。この辺り藤源治というのですが、それは何故？ということで、鎌倉街道沿いで古くから鍛冶職を続けて来られた三嶋屋のご主人からお話を伺ってきました。駿州三島大社で作られ、江戸時代以前から関東一円、東海、東山道まで広く普及していた「三島暦」（注）の、鎌倉、三浦方面への取次、販売を許されていた古いお家柄、明治十八年「神宮暦」以外の旧暦のすべてが禁止になったため、翌年から農機具を作る鍛冶屋をはじめ、ご当主は五代目、小袋谷川をまたぐ広い作業場で、ご子息夫妻はユニークなインテリアなども手がけておられます。北鎌倉女学園への登り口の橋が藤源治橋、藤源治というのは歴代高名な刀鍛冶の家、徳川家康は特に鎌倉一文字とよばれた助眞すけざね、国宗の太刀を座右に愛し、今も日光東照宮の秘宝とされています。一文字姓では備前長船が有名ですが、その一門で鎌倉に工房を構えた藤源治の屋敷は今の山ノ内八五〇番地辺りにありました。著名な刀匠の住居があったことから地名が残ったのでしょうか。現在、三嶋屋のご当主も協力され、藤源治流の歴史が研究されているそうですので、いずれ成果を拝見できると思います。

台峯及びその周辺は、まだまだ分け入り、検討されなければならない歴史の宝庫です。

和泉あき

（注）三島暦

仮名暦（漢字書きの暦が本格派で、男性の読むものとされていな時代、女性子どもも向けのものとして造られた）としては日本最古と言われている。木版刷りの品質が良く、旅の土産やお歳暮などとして人気があったと言われている。

台峯の周辺一歴史つれづれ④

月2回の台峯モニタリングでは時に稻荷神社脇に下りる。境内にある「NMノ碑」のこととは既に本誌NO.17で和泉理事が紹介された。明治10年の西南戦争戦死者の碑が明治29年にもなって建立されたことを、まさか西郷方のため永らく憚られたわけではないでしょうに、と不思議がっておられる。

横浜の伊勢山皇大神宮にある「明治十年西征陣亡軍人乃碑」の台座に近在の戦死者氏名が多数彫られているが、その中に彼の名を見つけた。建立は明治11年である。



稻荷神社

また港南区下永谷神明社に明治12年建立の「西南戦没軍人之碑」があり、やはり台座に台村NMの名が刻まれていた。

念のため靖国神社の偕行文庫で閲覧した「靖国神社忠魂史」には、明治10年4月8日の戦闘は大変激しく多数に上った死傷者の中に、第一旅団の東京鎮台歩兵第一連隊第一大隊二中隊の兵卒NMが山本郡植木で戦死した、とある。負傷後入院先で亡くなった者は没地として病院名が記載されるので、彼の場合にはほぼ即死であったろうと想像する。

官軍であることは明らかになったが、そもそも何故彼は出征したのだろう。

戦死する4年前の明治6年4月14日から、初めての天覧陸軍演習が鎌倉であったらしい。岩瀬村、天神山、子袋村、青船村などとともに、NMの住む台村にも兵が配置された。翌日鶴岡八幡宮前での点検式後、攻守2隊に分かれ、境内の守兵隊を攻兵隊は金沢口より大倉町を通って攻撃した。激しい攻防の末、守兵隊は子袋坂に退却、攻兵隊が勝利する。これを明治天皇は大臣山から視察していた。(「陸軍省衆規測鑑抜粹」)

しかし天皇だけではなく、村人は皆、若き日のNMも見物していたのではないだろうか。当時の鎌倉としては大イベントであったろう。これを機に彼は官軍に親しみを覚え、やがて官軍に多かったという志願兵になったのではないか。そんな想像をもってこの話を締めくくる心算でいたのである。

ところが、先般当基金恒例の「会員の集い」が光暉寺で催された。空いた時間に和泉理事と境内を散策していると、N家という名の墓所が幾つかある。その中の一つになんとNMの墓を発見したのだ。

戦死の日や場所とともに、「徴兵役」、「二男」などと彫られている。想像したような志願ではなく、明治6年に創設されたばかりの徴兵制により彼は官軍に駆り出されたのである。おそらくは二男であったがために。防人や武士はともかく一般庶民の戦死など我が国史上当時までは稀だったのではないか。そう思うと彼の死は一層哀れを誘う。

墓だけでなく碑を建立した理由もここにあるのだろう。明治29年となった理由は相変わらず不明のままであるが。

本田隆史

活動報告

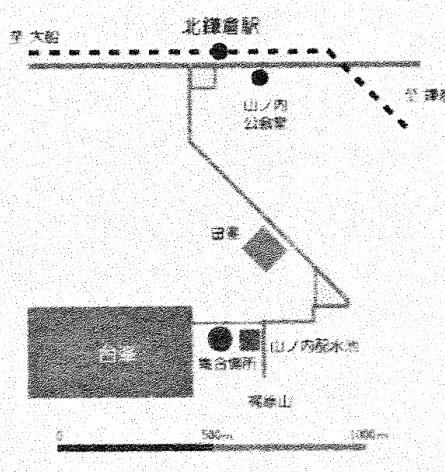
伝言板

(2011年10月～2012年2月)

- | | |
|---|---------------------------------|
| 1 定例理事会 | 10/2・11/6・12/4・1/8・
2/5 |
| 2 トラストの集い | 11/23 |
| 3 台峯を歩く | 10/16・11/20・12/18・1/15
2/19 |
| 4 山の手入れ | 12/17・1/14・2/5,18 |
| 5 モニタリング | 10/2・2/4,17・1/14,・2/5,18 |
| 6 台峯保全連絡会 | 10/28・11/29・12/16・
1/27・2/28 |
| 7 公園海浜課との現地視察および作業 | 10/24・11/21・1/23・
2/20 |
| 8 山ノ内 891 番地先（都市緑地候補地）を含む
(仮称) 山崎・台峯緑地周辺保全配慮地区の自然環境調査を行い、保全緊急性の正当な評価を求める陳情書を提出 | 2/8 |
| 9 陳情に基づき鎌倉市建設常任委員会にて陳述 | 2/29 |

手入れに参加しませんか？

毎月第3日曜日の前の土曜日、10時～12時
服装は長袖、長ズボン、歩きやすい靴（湿地の
作業は長靴）軍手と帽子、飲み物は必携。
作業に必要な道具は用意します。



参加ご希望の
場合は事務局に
ご一報下さい。
集合場所は
左図、山ノ内配
水池付近です。

カレンダーご購入御礼

皆様のご協力により、好評だった昨年とほぼ同じ部数の売り上げがありました。

ありがとうございました。

今回は販売協力書店が店じまいのため、特に大船方面では手に入れにくく、皆様にご不便をおかけしましたことお詫び申し上げます。カレンダーで定例の歩く会、手入れの会の日程をご確認いただき、どうぞ台峯にお越しください。

編集後記

今回は藤源治の開発計画に対する私たちの保全運動の報告のために定例のモニタリング、手入れ、歩く会などの活動報告に十分スペースを割けませんでした。

また会計報告については、発行が期末に近い時期のため、中途半端な報告となるために載せませんでした。以上ご了承ください。

新規会員募集中

年会費 2,000円

会費及び寄付金の振込み先

郵便口座番号 00250-2-20454

口座名 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

会報 26号

発行日 2012年3月10日

発行者 NPO 法人 北鎌倉の景観を後世に伝える基金

事務局 〒247-0062 鎌倉市山ノ内704-9

（和泉方）TEL 0467-47-9892

Email aramaki@gw3.u-netsurf.ne.jp

HP <http://www.kamakura-daimine-trust.org/>

写真提供： 池 英夫・石原瑞穂・川上克己

本田隆史・市川和夫

春に咲く小さな木の花



オニヤバリ

2月～3月に咲く



ウギスカダラ

2月末～4月に咲く



キブシ

3月～4月に咲く



ニワトコ

3月下旬～4月中旬に咲く



ヤマツヅジ

4月下旬～5月上旬に咲く



ノイバラ

5月中旬～下旬に咲く